

# 定期学習会記録

2006/10/21 プラザイースト

〔参加者〕 金子 三浦 阿部 郡司 安藤 橋元 福島 坂本

## ■カンボジアでのスタディーツアーの体験談

〔講師〕 島崎さん、橋本さん、赤坂さん  
(カンボジアでの体験から)

8月17日～24日、CVSGのスタディーツアー  
子どもたちと遊んだり、村の作業の手伝いなど。



### ○参加動機

- ・小学生のころからガールスカウトをやっていて、国際協力などに興味があった。民族紛争の話聞き、衝撃を受けた。観光ではなく、実際に体験したいと思い、参加した。(島崎)
- ・子どもたちの現状を知り、衝撃を受けた。実際に自分の目で、海外の子どもたちにふれたいと思い、参加した。(橋本)

四つの空港からばらばらに出発。ホーチミンで乗り換え、カンボジアへ。

### ○CVSG

カンボジアの村を支援する団体。岡山・倉敷に本部がある。日本が作った団体。

カンボジアは、何度かのクーデターがあり、貧しい国となっている。

→物乞いでつないでいる状況。自立するのは困難。

### ●自立支援センター。共同生活を送りながら、自立支援を促す。

→2年の間に農業技術を身につけていく。収益は自立するために積み立てている。

→最低限の額の支援。(自立するための支援であるため)

支援村で、家と畑を支給される。

→とても広く、手入れが行き届かない感じがする。

→草が生えていたり、大変そうであった。

→ABCに分かれている。(自立できているA→B→最近入った家族C)

子どもは、子どもセンターか子どもレストラン学校へ。

学校があり、成績がよかったら、次の段階の学校へ。

→日本語を勉強して、働きに行く

→レストランでの売り上げは、自立資金の積み立てへ。

### ・仕事について

日本語の通訳が一番「エリート」と言われる。(そのため、日本語を勉強)

公務員は「エリート」ではない。

### ○支援村

舗装されていない道をいく。

障害者の村

子どもたちだけで農作業や家事をしていた。(両親は働きにいつている)

### ・左腕のない父親。

→合計3回、地雷の被害(腕、足、背中)

→農機具を使うのは上手。3歳の子どもも手伝っていた。

→内戦の時、兵士としてかり出された時の話。  
一般市民が（上級兵の前に立ち）先頭になって、歩いていた。  
歩かないと、後ろから撃たれる。

### ○Cの村

雑草だらけ。自立できるとみなされて村に行っているが、長年自立を知らずに生活してきた人たちだから、なかなかうまくいかないのかもしれない。

- ・最近まで地雷原。  
子どもたちが走り回っていた。  
→子どもたちはとても明るく、人なつっこい。
- ・子どもたちの服は、汚れていた。  
→支援はありがたいが、ただではあげない。  
（ただであげると、お金にしようとして売りに行ってしまう。）

### ○自立を目指しながらも、物乞いする人がいた。

日本が昔からものをあげすぎた。  
「おねえさんきれいだね、1ドルちょうだい」など、物乞いの言葉をよく知っている。  
「物乞いが職業として成り立つ」という言葉も聞かれた。  
→「物乞いする人ほど、家はお金持ち。小遣い稼ぎ。」とも。

### ○ライフライン

- ・水道、電気が普及していない。
- ・泊まったホテルも、お湯が出ない。
- ・トイレは一応水洗だったが、村のトイレは汲み置きの水を自分でかけていた。
- ・すごくきれいな孤児院があった。  
→設備がいいので、お金持ちの家の人が入れている。  
実際の孤児が入れないという現実。

### ○テレビで放映される、支援された学校など

- ・「テレビ用。」
- ・先生が集まらず、学校を作るだけで満足している。  
→給料のやりくりまで、考えがまわっていない。
- ・テレビの取材の時だけ子どもを集めて、収録している。



### →日本人はイメージを持ってカンボジアにくる。

→テレビでのイメージは、テレビ用に作られたイメージにすぎない。  
イメージと違うではないか、で終わってしまう人が多い。  
現実をしっかり受け入れてほしい。

### ○カンボジアに関するNGOは多いが、たいてい給料を払っている。

CVSGは完全無償でやっている。

センター所員の話「日本人は厳しくしないといけない。」

→日本人はものをくれると思っている。  
自立のためには、嫌われてもしかたがない。

### ●地雷博物館

「アキラ」さんが今まで撤去した地雷の展示公開。  
→昔、地雷を埋めたことがある。その重大さを感じ、撤去している。

地雷を作るのはとても安い、撤去にはお金がかかる。

→スタッフ一人につき、10～50ドル前後。

爆破する道具・機械にも莫大な費用。一月3000ドルほども必要。

アキラさんは自費でやっている。

#### ・政府の対応

地雷をなくすと他からの支援がなくなるので、地雷撤去には消極的。

国民の命がなくなるより、支援がなくなるほうが政府としては問題のよう。

地雷撤去には、現在、3つのNGO団体が活動している。

アキラさんは4つめになりたいと思っているが、既存のNGOは「支援の分配が減る」という理由で否定的。

#### ・地雷

対人地雷、対戦車地雷など。

人を殺すものより、人を苦しめるものが多い。

→一人殺すより、生かしたまま動けなくして、看病などで人手を減らす目的。

#### ○手当・治療について

病院は大きなところにしかない。

公には、「治療費は無料」など大げさにいうが、現実には「一日だけ無料」など。

→実際の治療には長い期間がかかるのに…。

→学校に通う比率も、一日だけ通っても「通学している」として、イメージを高めている。

#### ○NGOの撤去人員

給料の確保が難しく、次第に減っている。

大都会の仕事に流れていく。

→昔、内戦で殺し合っていたので、命を軽く見る人もいるのでは？

#### ○教育が行き届いていない

→地雷の恐怖を知らず、地雷で遊んでいて被害に遭うケースも。

#### ○地雷除去団体「CMAC」との同行

多くの書類を書かされる。

数時間かけて、タイ国境付近の地雷原へ。

撤去済みの場所でも、前の人を通ったところしか歩けないほどの恐怖感。

爆破作業は、ケーブルを数十メートルのばして行う。

爆破はものすごい音がした。しばらく、身動きができなかった。

4メートルほどの煙が上がった。

#### ●トンレサップ湖

観光地のため、物乞いがすごい。

→決して物をあげてはいけない。

雨季(6月～10月)にしか出現しない湖。

→雨季には、家を移動する。



## ■ 質疑応答より

### ・子どもたちの格差

街には英語の教科書を持ち、アクセサリーをもつ子も。

### ・人なつっこい子どもたち

アルプス一万尺ができた！

写真をとってほしい！

### ・テレビやラジオは、都市部のホテルにはあった。

歌番組が多かった印象。

### ・一週間、18万円程度のツアーであった。

現地で寄付金などの要求も。

### ・食事について

ホテルでは、バイキングなどの通常のもの。

日本食レストランでの弁当。

ドラゴンフルーツ、パパイヤなどは、どこでもある。

子どもレストランでは、子どもたちが作っている。安くとてもおいしい。

### ・現地の子ども兄弟について

多い。少なくて3人くらい。

### ・子どもたちの状況

とても小さい。13歳でも、6～7歳くらいに見える。

誕生日がわからないので、だいたい何歳、という感じ。

両親がそろっていない子どもも多い。

→地雷の被害、出稼ぎなど。

→おじいさんがいない。(ポルポト時代に、虐殺されてしまった)

### ・義肢や義足

つけていない人が多い。

### ・夏の気候

からっとしているが、とても暑い。

水をかなり飲んだ。

→支給された水のみ。歯磨きも。

→アイスクャンディを買ってきてくれたので食べたら、おなかを壊した。

### ・村の土地の所有権は

C V S Gが土地を所有しており、それを分けている。

### ・「国際理解教育」から「国際教育」へ

理解だけにとどまらず、国際的に動けるような教育へと変わってきた。

### ・地雷をなくそうとしない政府について

→苦しむ人のことを考えていないのか。衝撃。

現実をみて、それを伝えていかないといけない。

### ・WAVOCについて

早稲田ボランティアセンター。ボランティア活動を行う団体。

### ・ライフリンクについて

子どもを支援するネットワーク



・他のNGOとの連携は？

トラブルがあり、非公開に。

→同じような考えのNGOと共存共栄すべきでは。

・自立支援の村について

子どもの被害は？

→子どもたちは、被害には遭っていない。

外に出て働くことは？

→畑を支給されているので、難しい。

子どもが、レストランなどで働くのがせいぜい。



・地雷の残存数

→確実な数は把握されていないが、100万個とも、300万個とも言われている。

・ごみが多い。

→ゴミ箱に捨てるという発想がない。(教育がなされていない。)

・治安はどうか

街を歩いていて怖いことはなかったが、一人で行動してはいけないと言われた。

夜の10時を過ぎたら、男の人たちが集まってくるので、何人かで一緒に行動した。

・物乞いする子どもたち

→村にいる子どもたちはにこにこしているが、お金持ちの物乞いは、あげないと暴言をはいていく。

→湖で物乞いをしていた子どもたちは、服を着ていなかったり腕がなかったりする子もいた。(湖に浮いているので、どこからきたかはわからない。)

→水の上で暮らしている。

●争いはなぜ起こるのか

・自国の利益を第一に考えているから、争いごとがおこるのではないか。

・地球市民として、世界全体のことを考えて発言しないといけないのではないか。

・社会を学習する意義

→悲惨な歴史を知って、歴史を繰り返すことのないように学習するのではないか。

→未来を作るために歴史を学ぶ。

・些細なことが大きくなる。

→次第に自分が抑えられなくなって、大きくなっていく。

感情の顕れなのではないだろうか。

→視点を変えて、「自分はこれがいいけど、みんなのためには、どれがいいの」という考えが必要。

・地雷撤去の問題もそうだが、なぜそうなったのか原因を知り、どうすることができるのか、どうすべきなのかを考えていくことが必要ではないか。

・カンボジアでは法律はあってもないようなもの。悪い心が出ないようにするための仕組みも必要なのではないか。法律の必要性。

・争いはあっても、口争い、討論にとどめなければいけない。武器があるから戦争になってしまう。

→争いたい心、武器を持ちたい心が生まれる人間がいる。それを抑えるより、教育で心を変えていくことが大切だろう。

→各国の素晴らしい文化を交流することが必要ではないか。目に見えない心を育むには、豊かな文化に触れ、伝統文化をとらえて、文化を自分のものにしていくことが大切ではないか。

・どのような職業に就いても、ボランティア・スピリットがあれば、どんなことでもできる。そういう心をもつことができればいい。

・仲良くするためにはどうしたらいいだろう、という考えをもつべき。  
・見た目の結果を求める表面上の教育だけではなく、どれだけ友達を思いやることができたかとか、そういう視点をもって、学校だけでなく家庭でも子どもに接して育てていきたい。